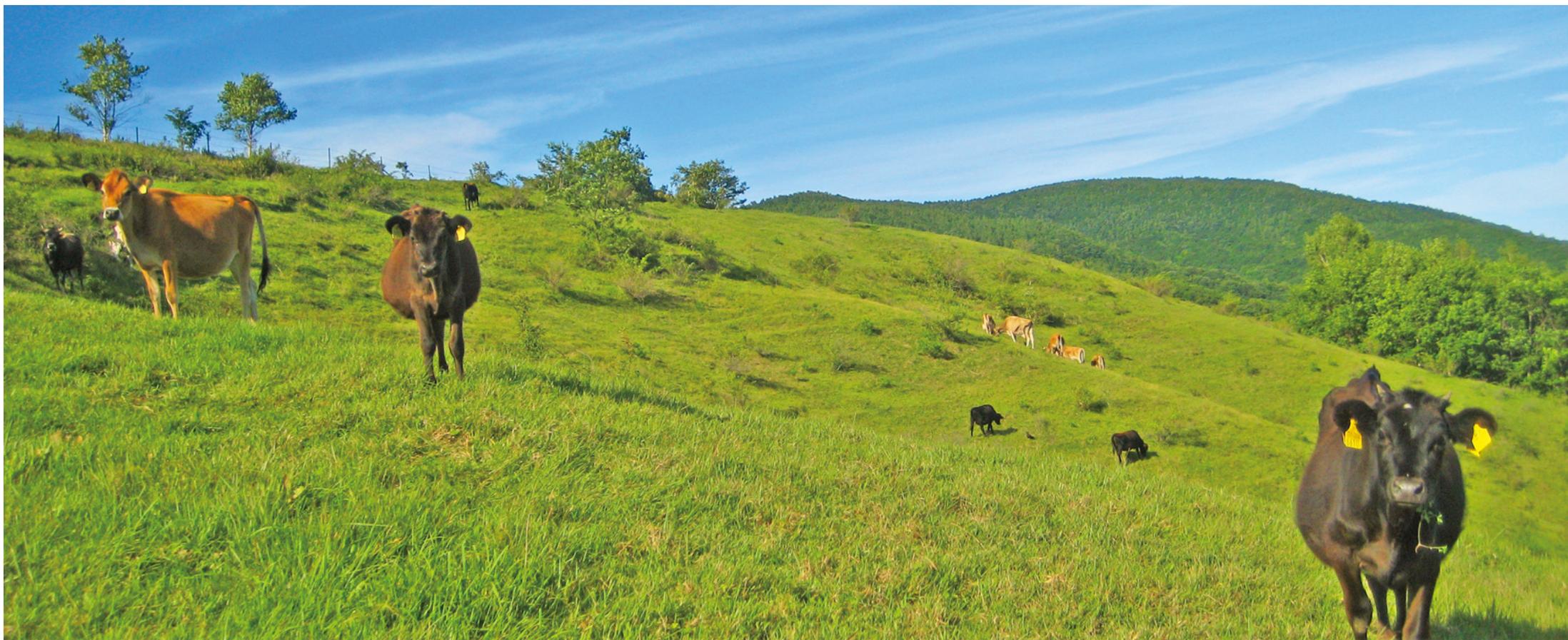


幸せな牛からおいしい牛乳



山地酪農家 中洞 正

農業生産法人(株)企業農業研究所・中洞牧場

東京農業大学客員教授

中洞 正について

- 1952年岩手県宮古市生まれ。酪農家。
- 東京農業大学農学部在学中に、猶原恭爾（なおはら きょうじ）氏が提唱する山地酪農に出会い、直接教えを受ける。卒業後、岩手県岩泉町で酪農を開始。
- 野シバと自家サイレージ主体の飼育、および通年昼夜放牧・自然交配・自然分娩・自然哺乳（産後2ヵ月程度）でノーストレスの健康な牛を育てる山地酪農と、その健康な生乳による乳製品の製造販売を組み合わせた「中洞式山地酪農」を確立。
- 山地酪農コンサルタントとして活動。これまでに自身の創設した中洞牧場以外にも北海道の美瑛ファームなど6件の牧場を手がけた。また、'04年より東京農業大学客員教授を務める。
- 著書に「幸せな牛からおいしい牛乳」（コモンズ社）、「黒い牛乳」（幻冬舎）、「ソリストの思考術・中洞正の生きる力」（六耀社）「日本とEUの有機畜産」（共著・農山漁村文化協会）、ほか岩手日報論壇、畜産の研究(養賢堂)など著述多数



中洞式山地酪農の概念

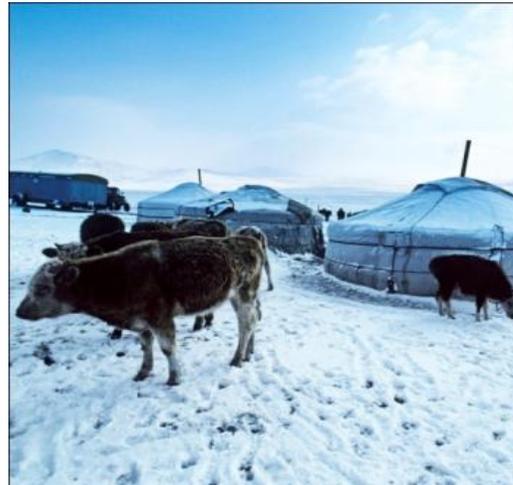
- 草食動物である牛に、**本来の主食である青草を放牧で与える。**
- 人の手を借りない、**自然交配・自然分娩・自然哺乳。**
- **24時間、365日の自然放牧**でストレスのない健康な牛を育てる。
- **少頭数・低コスト**で、牛にとっても人にとっても無理のない経営。
- 牛乳を加工する**ミニプラントを所有**し、牛乳などの乳製品を製造する。
- 消費者に直接アプローチできるように**販売・流通も手掛ける。**
- 森林の多い日本で**林業と共生**し、日本の国土を有効に活用する。

穀物生産の不適な地域で行われる農業

※写真協力: 宇佐美写真事務所

●モンゴル

最低気温が零下40度にも達するため、仔牛は冬場のみパオ（テント）で人間と一緒に寝る。ちなみに岩泉町は冬でも零下18度。



●スイス

標高3,000m級の山々に囲まれたスイス・アルプスの放牧。放牧地には露出した岩が点在し、斜面や起伏のきつさは日本の比ではない。

荒れた里山と放置された田畑



他の植物を駆逐する孟宗竹



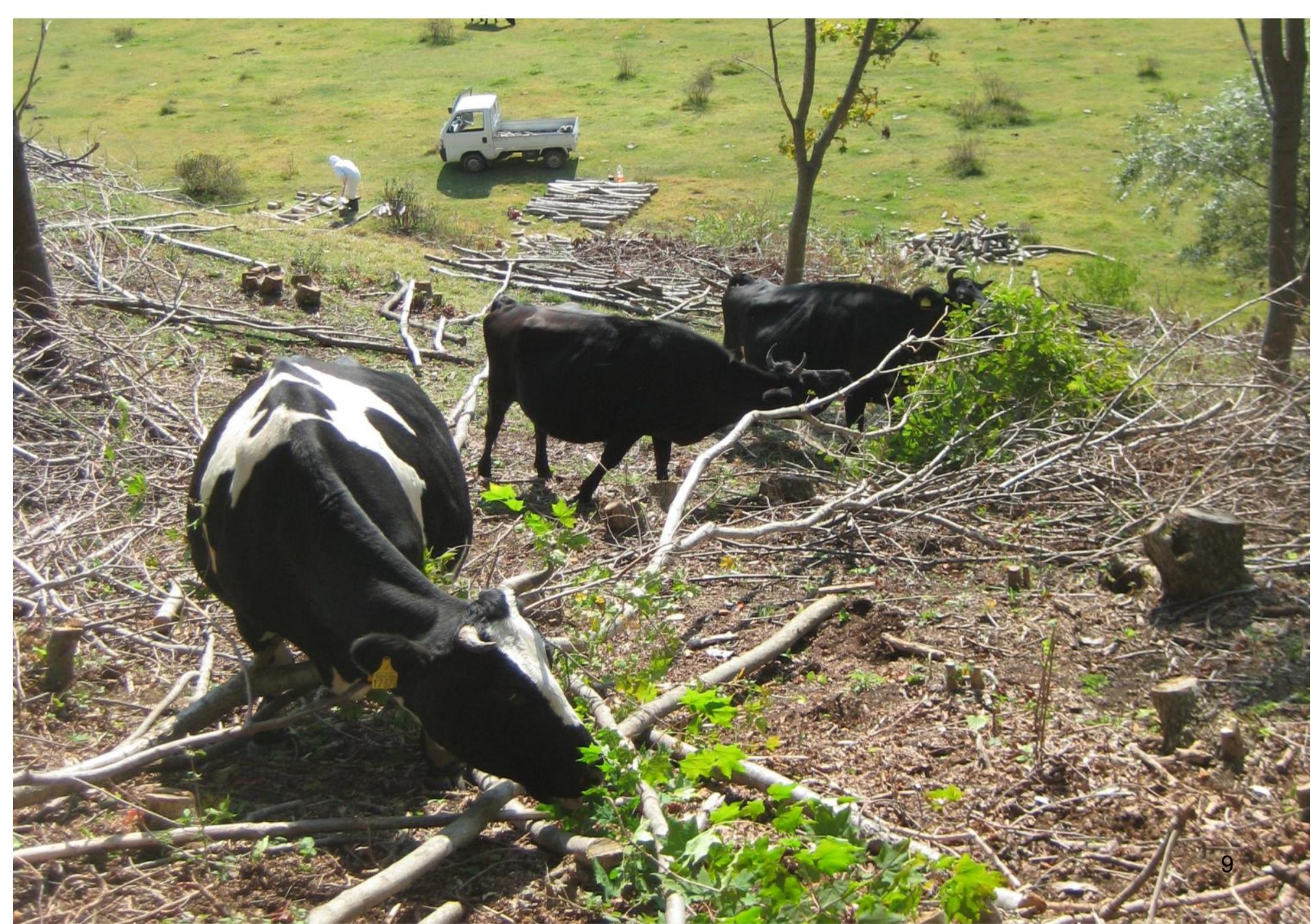


A photograph of a dense forest of tall, thin trees, likely pines or cypresses. The forest floor is covered in a thick layer of fallen needles and branches, creating a dark, textured ground. The trees are closely spaced, and the lighting is soft, suggesting a shaded environment. The overall scene is a natural, undisturbed forest floor.

日陰のため一切の植物が生えない杉の林床

A large tree with white bark stands in a field. In the background, there is a fence and a forested hill. The sky is blue.

ウシの入らない隣接の山と中洞牧場の放牧地







25年前に牧場内に植林した唐松



広葉樹の保水効果

牛は針葉樹を食べない

(写真:唐松の幼木)



下草が繁茂した植林地

牛と野シバ

野シバは半永久的に育つ











シバの根毛は地下4～50cmまで伸びる

研修・宿泊棟、牛乳プラント

乳製品プラント

牛舎

研修宿泊棟

さいごに

どうせなら動物たちに幸せな生活をして欲しくはないですか？

アルプスのような観光資源を日本に作りたくはないですか？

「昔は採れた」野草や魚たちに戻ってきてほしくはないですか？

若者が自ら進んで農業を継ぐ国にしたいくはないですか？

ちゃんと食べていける農業を作りませんか？